

環境経営レポート 2023

活動期間:2023年1月~12月

発行日 : 2024年3月



環境省
エコアクション21
認証番号0005983

はじめに

<産業用ロボット事業>

私たち株式会社アイエイアイは、静岡県静岡市清水区に本社を置く、小型産業用ロボットのリーディングカンパニーです。

単軸・直交ロボットでは、国内・海外ともにトップシェアを誇っています。

数多くの営業拠点での充実したサポート体制により、自動化の進む自動車業界を中心に、電子部品・精密機器、家電、液晶・半導体、物流業界をはじめ、食品・医薬品・化粧品などさまざまな製造現場において幅広いお客様の生産性向上に貢献し、ものづくりを支えています。

主力製品である「エレシリンダー」、「ロボシリンダー」は、省エネ性能に優れており、工場のCO2排出量を抑え、温暖化防止に貢献する環境に優しい製品です。

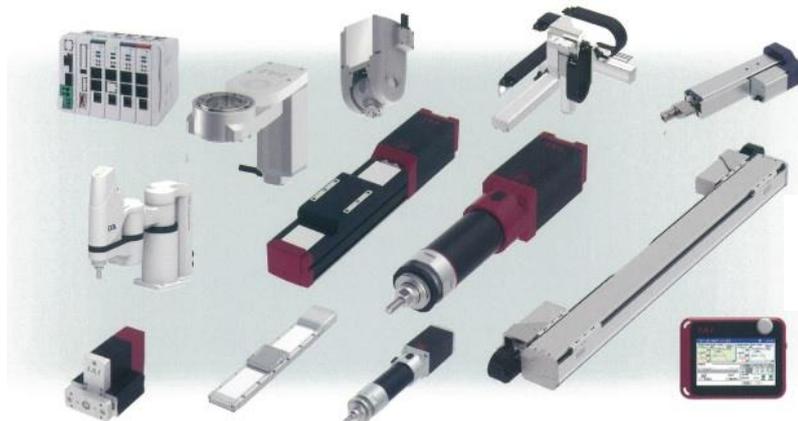
<エコファーム事業（農業研究部門）>

2007年1月にエコファーム部（農業研究部門）を設立しました。化学合成農薬及び化学合成肥料を使用しない農法の開発と普及に努めています。

地球環境に配慮した環境経営を行う企業として、企業活動のあらゆる面で積極的に環境負荷低減活動を進めています。

アイエイアイ製品の紹介（自動化ライン例）

<p>① スライダータイプ</p> <p>長距離・水平搬送に ストローク：25～4155mm 可搬質量：～水平400/垂直80kg 速度：～3000mm/s</p>		<p>⑦ ロータリー</p> <p>回転・インデックステーブルに 本体幅：45～180mm 最大トルク：0.24～75N</p>	
<p>② 直交ロボット</p> <p>ピック&プレース・検査に 軸数：2～6軸 ベース軸可動範囲：50～4155mm 可搬質量：～90kg</p>		<p>⑧ テーブルトップロボット</p> <p>セル生産に (コントローラー、電源内蔵) ベース軸可動範囲：200～500mm 可搬質量：～30kg</p>	
<p>③ グリッパー</p> <p>内径/外形形で持上げる用途に ストローク：2～130mm(片側) 最大把持力：10～880N(両側)</p>		<p>⑨ テーブルタイプ</p> <p>取付け簡易 スペース確保が必要な場合に ストローク：20～390mm 可搬質量：～水平30/垂直24kg</p>	
<p>④ 直交型6軸ロボット</p> <p>ローダー・アンローダーに ベース軸可動範囲：50～1100mm 可搬質量：～2kg</p>		<p>⑩ ラジアルシリンダー*</p> <p>ラジアル荷重がかかる 押付け/引張りをする際に ストローク：25～800mm 可搬質量：～水平300/垂直150kg</p>	
<p>⑤ エレシリンダー*</p> <p>2点間位置決めに 価格：¥27,500～(コントローラー内蔵) 製品：スライダー・ロード、ラジアルシリンダー* テーブル・グリッパー・ロータリー スッター・クリーン・防塵防滴</p>		<p>⑥ クリーン・防塵防滴</p> <p>クリーンルーム内 粉塵や水のかかる環境に 製品：スライダー・ロード ラジアルシリンダー*・グリッパー ロータリー・スカラロボット</p>	<p>⑫ コントローラー</p> <p>コンパクトかつ多機能! ・異なるモーター種類の混在可能。 ・直接数値指定や移動中の速度変更、 予兆安全など機能が豊富 ・わかりやすいデバッグツールも充実</p>



電動アクチュエーターからコントローラー
スカラロボットまで一貫生産しています。

目次

1 組織の概要	…	1-3 ページ
1-1 会社概要（2024年2月1日現在）	…	1・2 ページ
1-2 認証・登録の対象組織	…	3 ページ
2 対象範囲	…	4 ページ
2-1 組織図	…	4 ページ
2-2 役割分担	…	4 ページ
3 環境経営方針	…	5 ページ
4 環境経営目標	…	6 ページ
4-1 目標設定について	…	6 ページ
5 環境経営目標と実績	…	7・8 ページ
5-1 数値目標及び実績	…	7 ページ
5-2 数値目標及び実績のグラフ	…	8 ページ
6 環境活動計画と取組事例	…	9-18 ページ
6-1 当期の活動計画と実績	…	9-11 ページ
6-2 取組事例	…	12-18 ページ
7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無	…	19・20 ページ
8 代表者による全体評価と見直し結果	…	21 ページ

1 組織の概要

1-1 会社概要(2024年2月1日現在)

会社名 : 株式会社アイエイアイ
 代表者 : 代表取締役社長 石田 徹
 所在地(本社) : 静岡県静岡市清水区尾羽 577-1
 事業所所在地 :



本社・工場



尾羽工場



富士宮工場

本社・工場 (静岡営業所含む)	静岡県静岡市清水区尾羽 577-1 TEL 054-364-5301 FAX 054-364-5182
尾羽工場	静岡県静岡市清水区尾羽 580-1 TEL 054-364-8000 FAX 054-366-6311
富士宮工場	静岡県富士宮市内房 1700 番地 0544-29-2500 0544-29-2505
東京営業所	東京都港区芝 3-24-7 TEL 03-5419-1601 FAX 03-3455-5707
大阪営業所	大阪府大阪市北区中之島 6-2-40 TEL 06-6479-0331 FAX 06-6479-0236
名古屋営業所	愛知県名古屋市中区栄 5-28-12 TEL 052-269-2931 FAX 052-269-2933
小牧営業所	愛知県小牧市中央 1-271 TEL 0568-73-5209 FAX 0568-73-5219
四日市営業所	三重県四日市市諏訪栄町 1-12 TEL 059-356-2246 FAX 059-356-2248
新豊田営業所	愛知県豊田市小坂本町 1-5-3 TEL 0565-36-5115 FAX 0565-36-5116
三河営業所	愛知県安城市三河安城南町 1-15-8 TEL 0566-71-1888 FAX 0566-71-1877
盛岡営業所	岩手県盛岡市長田町 6-7 TEL 019-623-9700 FAX 019-623-9701
秋田出張所	秋田県にかほ市平沢字行ヒ森 2-4 TEL 0184-37-3011 FAX 0184-37-3012
仙台営業所	宮城県仙台市青葉区上杉 1-6-6 TEL 022-723-2031 FAX 022-723-2032
新潟営業所	新潟県長岡市千歳 3-5-17 TEL 0258-31-8320 FAX 0258-31-8321
宇都宮営業所	栃木県宇都宮市東宿郷 5-1-16 TEL 028-614-3651 FAX 028-614-3653
熊谷営業所	埼玉県熊谷市籠原南 1-312 TEL 048-530-6555 FAX 048-530-6556
茨城営業所	茨城県牛久市ひたち野東 5-3-2 TEL 029-830-8312 FAX 029-830-8313
多摩営業所	東京都立川市紫崎町 3-14-2 TEL 042-522-9881 FAX 042-522-9882
甲府営業所	山梨県甲府市丸の内 2-12-1 TEL 055-230-2626 FAX 055-230-2636

厚木営業所	神奈川県厚木市旭町 1-10-6 TEL 046-226-7131 FAX 046-226-7133
長野営業所	長野県松本市島立 943 番地 TEL 0263-40-3710 FAX 0263-40-3715
浜松営業所	静岡県浜松市中区大工町 125 TEL 053-459-1780 FAX 053-458-1318
金沢営業所	石川県金沢市西念 1 丁目 1-7 TEL 076-234-3116 FAX 076-234-3107
滋賀営業所	滋賀県守山市浮気町 300-21 TEL 077-514-2777 FAX 077-514-2778
京都営業所	京都府京都市伏見区竹田向代町 559 TEL 075-693-8211 FAX 075-693-8233
兵庫営業所	兵庫県明石市樽屋町 8-34 TEL 078-913-6333 FAX 078-913-6339
岡山営業所	岡山県岡山市北区下中野 311-114-101 TEL 086-805-2611 FAX 086-244-6767
広島営業所	広島県広島市中区大手町 3-1-9 TEL 082-544-1750 FAX 082-544-1751
徳島営業所	徳島県徳島市東大工 1-9-1 TEL 088-624-8061 FAX 088-624-8062
松山営業所	愛媛県松山市樽味 4-9-22 TEL 089-986-8562 FAX 089-986-8563
福岡営業所	福岡県福岡市博多区博多駅東 3-13-21 TEL 092-415-4466 FAX 092-415-4467
熊本営業所	熊本県熊本市東区健軍本町 1-1 TEL 096-214-2800 FAX 096-214-2801
大分営業所	大分県大分市東大道 1-11-1 TEL 097-543-7745 FAX 097-543-7746
東京オフィス	東京都渋谷区代々木 2-13-4 TEL 03-5358-3593 FAX 03-5358-3968
尾羽圃場	静岡県静岡市清水区尾羽 587-1、2
富士宮農場	静岡県富士宮市内房 1700 番地
庵原事業所	静岡県静岡市清水区庵原町 1210

環境管理責任者 : 品質保証課 伊東 真一
連絡先 TEL 054-364-5302 FAX 054-371-4302

事業内容 : 小型産業用ロボット及びそのコントローラーの開発, 設計, 製造, 販売
農業, 環境保全技術の研究開発並びその技術供与

事業規模 :

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年
売上高	百万円	32,700	34,500	34,600
総従業員	人	1,366	1,425	1,487
床面積	m ²	52,533	52,533	52,533
敷地面積	m ²	739,171	739,171	739,171
圃場面積	m ²	38,454 (尾羽、富士宮)	38,454 (尾羽、富士宮)	38,454 (尾羽、富士宮)

事業年度 : 1月～12月

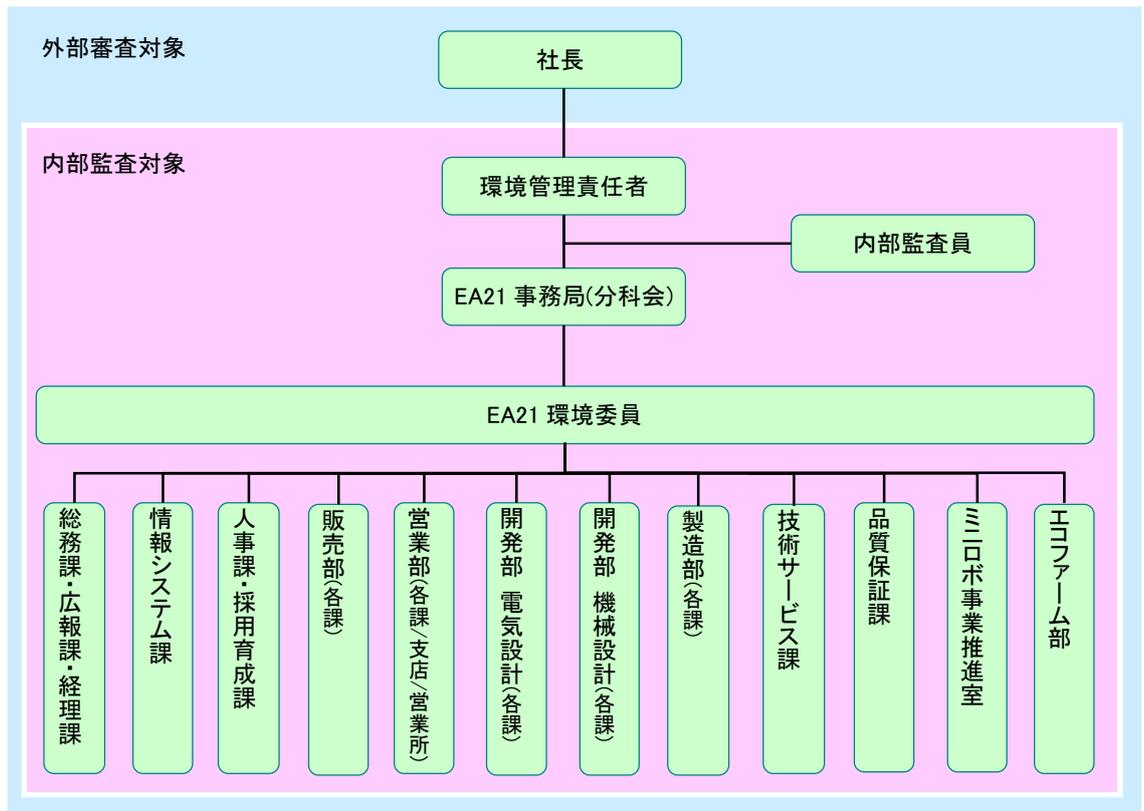
1-2 認証・登録の対象組織

登録組織名 : 株式会社アイエイアイ

関連事業所 : 本社・工場、尾羽工場、富士宮工場、庵原事業所、
全営業所(31ヶ所)、東京オフィス、尾羽圃場、富士宮農場
(全組織、全従業員を対象とする。)

2 対象範囲

2-1 組織図



2-2 役割分担

組織名称	役割・責任
社長	環境方針を定め活動計画を承認、資源(人材・資金・技術)を用意、システムの取組状況の評価・見直しを実施し必要な指示を行う 見直し・指示は毎年1回実施、環境経営レポートの開示指示 課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	システムの総責任者としての役割権限を他の責任にかかわらず持ち、 システムの実績を社長に報告し、指示を受ける 環境経営レポートを社長に報告する
内部監査員 (環境委員他)	システムの運用・実施状況についての監査 (監査:2回/年)
EA21 事務局	<ul style="list-style-type: none"> 各分科会メンバーに属し、個別課題を遂行することでEA21の活動を円滑に進める 関係部署の環境委員へ必要な情報を伝達する 環境関連法規等の取りまとめと見直し 環境経営レポートの作成
各部門責任者	自部門におけるEA21の総括責任者 自部門におけるEA21運用指示及び進捗状況の把握 課題とチャンスの明確化
各課課長、 各営業所所長	自部門におけるEA21の責任者 自部門において環境活動計画、工程表の立案、進捗状況の監督 課題とチャンスの明確化
環境委員(リーダー)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門(課)におけるEA21の活動リーダー (活動計画の遂行、進捗状況の確認・記録・報告、環境負荷実績の確認) EA21事務局会議、分科会での決定事項の展開 (実施対応、連絡・周知・教育、使用化学物質調査、環境方針変更の周知)

3 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

当社は、省エネルギーに貢献する商品の開発・普及に努めると共に、環境保全に配慮した事業活動を推進します。

行動方針

- (1) 省資源・省エネルギーに役立つ産業用ロボット及びコントローラー製品を開発し、品質・性能を向上させ、その普及により地球環境の保護に貢献します。
- (2) 化学合成農薬及び化学合成肥料を使用しない農業生産技術と省エネルギー農業生産技術の開発と普及に努め、環境負荷軽減と我が国の農業生産力と食料自給率の向上に貢献します。
- (3) 環境経営方針・目標を定め、省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動を推進し、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量および水使用量を削減します。
- (4) 化学物質使用量の把握・管理を適正に行います。
- (5) 環境関連法規を遵守します。
- (6) 環境経営レポートを社内外に公表し、社会とのコミュニケーションを大切にします。
- (7) 環境経営方針を全従業員に周知し、全員参加で環境活動に取り組みます。また、定期的な見直しにより、環境経営システムの継続的改善を図っていきます。

制定 : 2009年11月16日

改定4 : 2019年11月8日

株式会社アイエイアイ
代表取締役社長

石田 徹

4 環境経営目標

4-1 目標設定について

4-1-1 中期目標(3年)

2021年度を基準とし、2024年度までに以下目標値を削減する。

- ・ 二酸化炭素排出量を2021年度 売上1億円あたり -3.0%にする。
- ・ 廃棄物排出量を2021年度 生産台数1万台あたり
一般廃棄物 -4.0%、産業廃棄物 -2.0%にする。
- ・ 水使用量を2021年度 従業員延べ人数あたり -3.0%にする。
- ・ 環境負荷物質の適正管理として、各部門で法規制を遵守し適正管理を実施する。
- ・ 自らが生産・販売・提供する製品は、関係部門の個別目標値とする。

新中期目標一覧(2021年度を基準年とした削減率)

	2022年度目標	2023年度目標	2024年度目標
二酸化炭素排出量	-1.0%	-2.0%	-3.0%
一般廃棄物	-2.0%	-4.0%	-4.0%
産業廃棄物	-1.0%	-2.0%	-2.0%
水使用量	-1.0%	-2.0%	-3.0%
環境負荷物質の適正管理	各部門で法規制を遵守し適正管理を実施		
自らが生産・販売・提供する製品	各部門の個別目標値とする		

4-1-2 2023年度当期目標(中期目標の2年目)

環境負荷物質の削減目標は、2021年を基準値とし以下目標値とする。

- ・ 二酸化炭素排出量を2021年度 売上1億円あたり -2.0%にする。
- ・ 一般廃棄物排出量を2021年度 生産台数1万台あたり -4.0%にする。
- ・ 産業廃棄物排出量を2021年度 生産台数1万台あたり -2.0%にする。
- ・ 水使用量を2021年度 従業員延べ人数あたり -2.0%にする。
- ・ 環境負荷物質の適正管理として、各部門で法規制を遵守し適正管理を実施する。
- ・ 自らが生産・販売・提供する製品は、関係部門の個別目標値とする。

5 環境経営目標と実績

5-1 数値目標及び実績

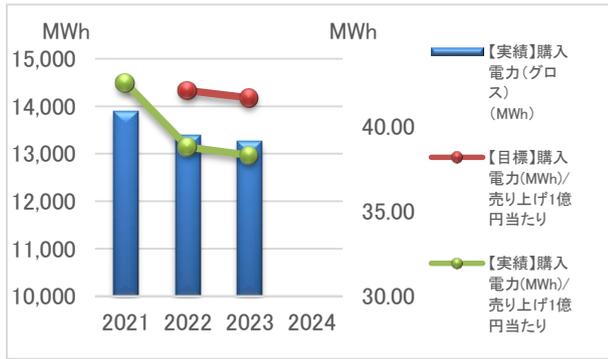
当期の数値目標と実績 CO2 排出係数は、中部電力株の調整後排出係数:2021 年は 0.472(kg-CO2/kWh)、2023 年は 0.379(kg-CO2/kWh)を使用しています。

※ 達成率(2023年度目標値基準)の計算は、(目標値/実績)×100

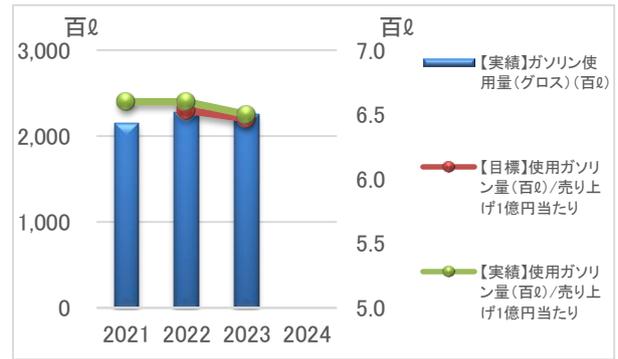
項目		単位	2021 年 基準	2023 年 目標	2023 年 実績	達成率	評価
二酸化炭素 排出量 【原単位】 売上 1 億円 あたり	電気使用量	購入電力 (グロス・MWh)	13,887	13609	13,255	108.8%	○
		購入電力 (原単位・MWh)	42.5	41.7	38.3		
	ガソリン使用量	使用ガソリン量 (グロス・百ℓ)	2,152	2,109	2,256	99.1%	×
		使用ガソリン量 (原単位・百ℓ)	6.59	6.47	6.52		
	LPG使用量	使用 LPG 量 (グロス・t)	140.44	137.63	132.3	110.3%	○
		使用 LPG 量 (原単位・t)	0.43	0.42	0.38		
	二酸化炭素 排出量	排出量 (グロス・t-CO2)	6,206	6,013	5,958	108.2%	○
		排出量 (原単位・tCO2)	19.01	18.63	17.20		
廃棄物排出量 【原単位】 生産台数 1 万台あたり	一般廃棄物	排出量 (グロス・t)	226.4	221.9	230.6	79.5%	×
		排出量 (原単位・t)	3.75	3.60	4.53		
	産業廃棄物	排出量 (グロス・t)	759.2	701.7	760.75	82.5%	×
		排出量 (原単位・t)	12.58	12.33	14.94		
水使用量 【原単位】 従業員延べ人数 あたり	水使用量	水使用量 (グロス・m ³)	19,136	18,753	17,792	114.9%	○
		水使用量 (原単位・m ³)	1.17	1.16	1.01		
自らが 生産・販売・提供 する製品	製品(性能、材 質、梱包等) サービス(配送、 修理、回収等)に 関する環境負荷 低減策の検討	各部署の取組み を目標・計画に 明記する	関係部 門の個 別目標 値	-	-	-	-

5-2 数値目標及び実績のグラフ

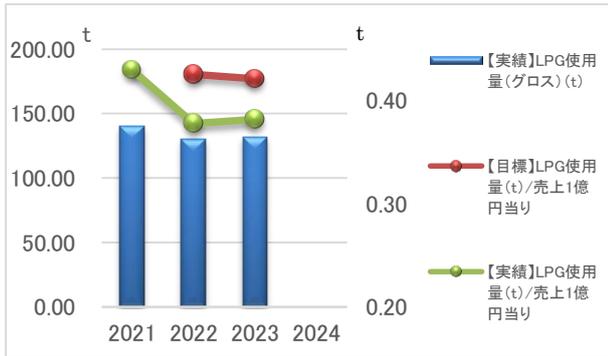
① 電力使用量の推移と目標・実績対比(単位:MWh)



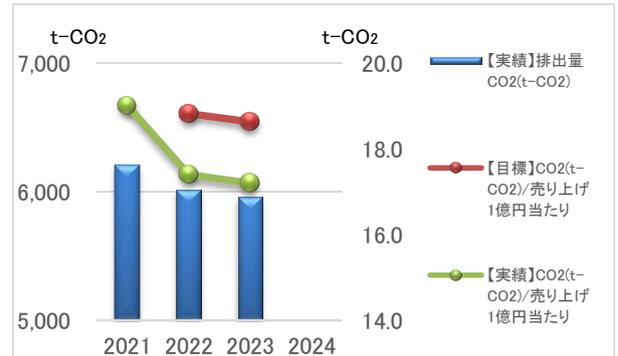
② ガソリン使用量の推移と目標・実績対比(単位:百ℓ)



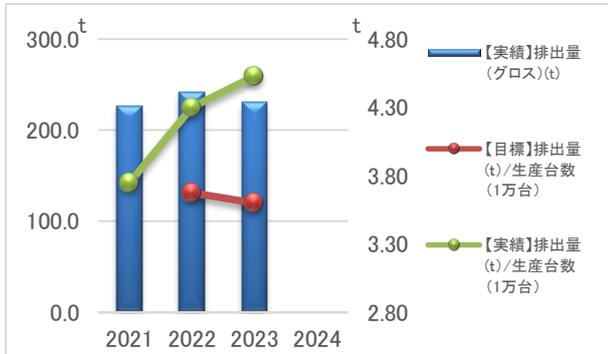
③ LPG 使用量の推移と目標・実績対比(単位:t)



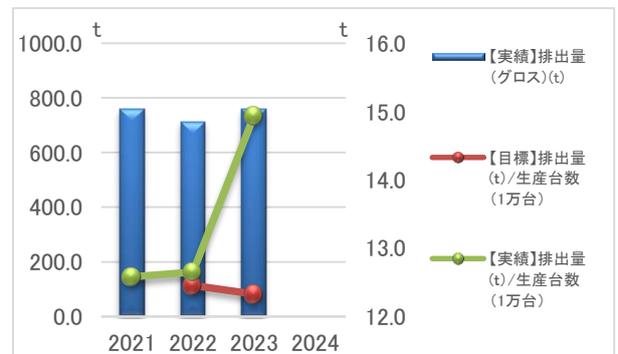
④ CO₂ 排出量の推移と目標・実績対比(単位:t-CO₂)



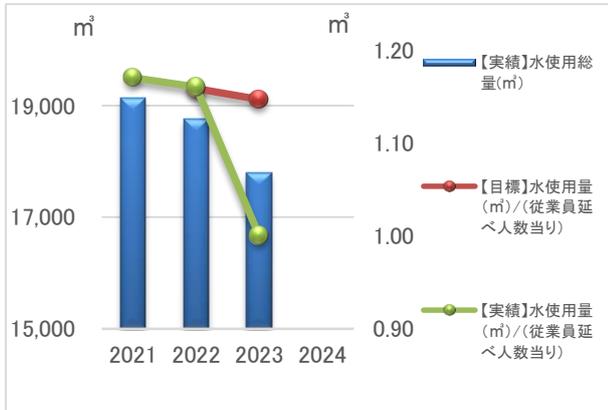
⑤ 一般廃棄物排出量の推移と目標・実績対比(単位:t)



⑥ 産業廃棄物排出量の推移と目標・実績対比(単位:t)



⑦ 水使用量の推移(単位:m³)



6 環境活動計画と取組事例

6-1 当期の活動計画と実績

活動期間 2023年1月～12月までの1年間

作成日: 2024年2月

凡例: ○=目標達成 / △=目標未達 0%以上～▲20%未満 / ×=目標未達 ▲20%以上

項目	活動計画	環境活動の取組状況	評価	次年度の取組内容(2024年度)
二酸化炭素排出量削減	エコカー(ハイブリッドカー)導入を推進する。→ エコカー比率を新規、更新時 50%以上とする。	<全社> ハイブリッドカーを 13 台導入したがガソリン使用量削減達成率未達。	ガソリン使用量 △	エコカー(ハイブリッドカー)導入を更に推進する。→ エコカー比率を新規、更新時 50%以上とする。(継続)
	<製造部> ・加工組立時間 10%削減活動(現場改善、作業環境改善により生産性を向上)を推進する。部全体では、年 76,000 時間/年を削減目標とする。	<製造部> ・「加工組立時間 10%削減活動」をテーマに活動を実施し、年間削減目標 76,000 時間に対し、88,388 時間を削減できた。(達成率 112.3%)	○	<製造部> ・加工組立時間 10%削減活動(現場改善、作業環境改善により、生産性を向上)を推進する。 部全体では、年 84,550 時間/年を削減目標とする。(製造部)
	<生産技術課> ・各工場の設備定期メンテナンス時に周辺機器含めエア漏れ状況を診断・漏れ箇所の修理を実施。 ・加工機のエネルギー原単位の設定と電力使用量の計測を行い、削減を検討する。 ・エア消費量削減活動(工場全体のエア漏れ調査、加工機のパーニア調査、日常点検の見直し)	<生産技術課> 「加工機電力原単位設定」 ・加工機電力調査 100 台/100 台完了。 「エア消費量削減活動」 ・クリーン検査室エア流量調査、改善 ・ブローガンエア漏れ調査、対策 対象:加工第 1 課、ダイカスト課 結果:漏れ 7 箇所/調査数量 71 箇所 ・加工機のエア漏れ補修(1 台) ¥4.8 万/年 の削減	○	<生産技術課> ・引き続き各工場の設備定期メンテナンス時に周辺機器含めエア漏れ状況を診断・漏れ箇所の修理を実施。 ・加工機のエネルギー原単位の設定と電力使用量の計測を行い、削減を検討する。
<尾羽工場> ・引き続きダイカストマシン、ロボット炉の業者点検により効率改善を図る。(継続)	<尾羽工場> ・引き続きダイカストマシン、ロボット炉の業者点検により効率改善を図った。 ①溶解炉点検(2/24 実施) ②ダイカストマシン押し出しシリンダー整備(3/7 実施) ③溶解炉ガス調整器の点検、交換(5/26 実施) ④3 号機溶解炉の点検扉開口部壁修理(11/24 実施) ※経年劣化により扉と壁の間に隙間ができ、熱が漏れていたため	○	<尾羽工場> ・引き続きダイカストマシン、ロボット炉の業者点検により効率改善を図る。(継続)	

	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工場に移動しない部署の照明LED化検討(移動部署確認) ・共用部分(食堂、会議室等)のLED化検討 ・改正省エネによる脱化石燃料化に対応するため、太陽光発電、蓄電池等導入の検討 	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存部の照明 LED 化実施。 事務所棟2F(生産技術課、自動機開発課)、事務所棟3F(自動機開発課) 工場棟2F(生産管理課、生産システムグループ) 	○	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2~3 階:製造事務所、生産システムグループ、自動機開発・生産技術課エリアの照明 LED 化実施完了予定。
<p>廃棄物排出量削減</p>	<p><全社></p> <ul style="list-style-type: none"> ・分別廃棄推進により、資源ゴミ増加に努める。 	<p><全社></p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物のリサイクルを推進する。 ・ゴミ分別の掲示を行い、リサイクルを更に強化 <p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規廃棄物業者契約により、ペーパータオルの全数リサイクル達成 	<p>一般 廃棄物 △</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取出しチャック板の充実を図り、成形不良数の削減に努める。 金型設計製作標準書を作成し、使い勝手の良く不良が出難い金型を作製し、成形不良数の削減に努める。
	<p><尾羽工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホットスプルー構造の金型を製作し、廃棄樹脂の削減の推進と既存金型でのランナーの廃棄容積低減を行い、廃棄物回収回数削減に努める。 ・取出しチャック板の充実を図り、成形不良数の削減に努める。(樹脂成形課) 	<p><尾羽工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランナーレス金型は、先行で1型起工、横展開予定。 ・ホットスプルー金型 起工0件 ・取出しチャック板の活用により成形不良が削減。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホットスプルー構造の金型製作し、廃棄樹脂の削減の推進と既存金型でのランナーの廃棄容積低減を行い、廃棄物回収回数削減に努める。
<p>水使用量削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漏水箇所のこまめなチェック実施。 ・漏水危険機器の早期交換検討。 	<p><本社、富士宮工場、尾羽工場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水回りに節水シールを貼り、注意喚起を実施。 ・自動水栓の水吐出量の調整。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・漏水箇所のこまめなチェックを実施する。 ・漏水危険機器の早期交換を検討する。
	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・井戸水の有効活用(庵原、富士宮) 	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・井戸の掘削(庵原事業所) 	○	<p><総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・井戸水の有効活用(庵原、富士宮)
<p>化学物質排出量把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷物質の適正管理を実施する。 ・法規制を遵守する。 	<p><本社、富士宮工場、尾羽工場、庵原事業所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷物質(化学物質排出量・使用量)の調査を実施。 ・環境関連法規を遵守。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷物質(化学物質排出量・使用量)を把握する。 ・環境関連法規を遵守する。

自社製 品・サー ビスにつ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の小型化(小形部品,軽 量部品の採用等)ネットワー ク製品(省配線化)の更なる 拡充を行い 環境負荷低減 を図る。 ・製品の部品点数削減,歩留 まり率向上、アブソ電池不搭 載機種拡大により化学物 質量の削減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の軽量化や部品点数の削減に より、環境負荷低減の拡大を図った。 ・アブソ電池不搭載機種拡大や塗装 品の不使用により化学物質排出量の 削減を図った。 ・ロシアによるウクライナ侵攻と円安に よる原材料・部品の仕入れ価格が高 騰し、生産台数が減少した。 	目標値: 目標値:売上 400 億円 売上 <開発部> 400 億 円 円 実績: 売上 346 億 円 △ <営業部/販売部> ・ホームページ上の省エネコ ンテンツによりアイエイアイ製 品が環境に優しい製品であ ることを周知する。 ・お客様向けの無料セミナー を通じてアイエイアイ製品を 使用することで省エネを推進 できることを伝える。
富士宮工 場周辺の 森づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・富士宮社有地及び隣接森 林を含む自然豊かな森作り の推進。(皆伐 6.0 ha、植栽 6,000 本) ・有機稲作を通じた里山の環 境保全及び耕作放棄地の有 効活用(田植え・稲刈り体 験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・富士宮社有地及び隣接森林を含む 自然豊かな森作りの推進。 (皆伐 1.4 ha、植栽 1,400 本) ・有機稲作を通じた里山の環境保全 (田植え・稲刈り体験) 	○ <ul style="list-style-type: none"> ・富士宮社有地及び隣接森 林を含む自然豊かな森作り の推進。(皆伐 1.6ha、植栽 1,600 本) ・有機稲作を通じた里山の環 境保全(田植え・稲刈り体験)

6-2 取組事例

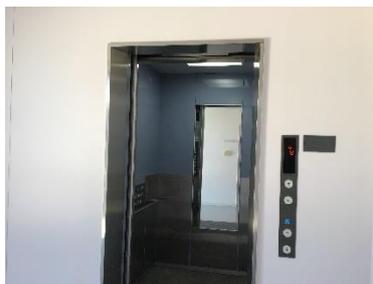
6-2-1 二酸化炭素排出量の削減

- (1) ガソリン使用量削減 … 社有車リース更新時ハイブリッドカー13台導入
- (2) 電気使用量削減(節電運動)

- ・照明のこまめな消灯、エアコン推奨設定温度の周知 節電・省エネシールによる啓蒙
- ・工場については昼休憩時一斉消灯を実施
- ・照明のLED化推進(本社 3F 工場棟内の一部、屋外外灯、従業員用エレベーター)



工場棟



従業員用エレベーター



節電表示



エアコン推奨設定温度

6-2-2 廃棄物排出量の削減

- ・分別の周知・徹底により、リサイクル資源を増やし、一般ゴミの排出量を削減しています。



リサイクルリールの回収



一般廃棄物の分別

6-2-3 水使用量削減

- ・手洗い場の自動水栓の吐出量の調整などの節水活動を実施しています。
- ・水回り箇所に節水シールを貼り、注意喚起を行っています。



6-2-4 自社製品サービスについて

- ・バッテリーレスアブソエンコーダー(バッテリー不搭載機種)の拡大により環境負荷低減を図っています。
また、製品小型化のリニューアルにより、部品点数と基板面積が削減され、使用材料が少ない製品にすることで省資源化と環境負荷低減に努めています。
- ・エレシリンダーはコントローラー内蔵、省資源、簡単操作により、お客様の消費エネルギーとコスト削減に貢献する製品です。
- ・コントローラーの分野では新規に塗装品を使用しないことで化学物質排出量の削減に努めています。
製品の部品共通化により部品数を削減することで管理工数と環境負荷低減(廃棄物・CO2削減)に努めています。

製品のバッテリーレス化に取り組んでいます

(1) バッテリーレスアブソエンコーダーとは

ギアの組合わせで回転位置データを認識するため、従来のアブソリュートエンコーダーに必要なバッテリーが不要となるエンコーダーのことです。

(2) バッテリーレスアブソエンコーダーのメリット

今まで必須だった原点位置を保持するためのバッテリーが不要となりますので下記のようなメリットがあります。

- バッテリーの廃棄が無くなる ⇒ 廃棄物の低減、環境負荷の低減
- 定期的なバッテリー交換がなくなる ⇒ 人件費の削減、生産効率UP
- バッテリー設置スペース不要となる ⇒ 制御盤の省スペース化が可能



6-2-5 環境保全活動

- ・里山の環境保全及び耕作放棄地の有効活用技術の開発を通して、有機栽培によるうるち米、もち米の栽培を行いました。稲作体験教室を田植えと稲刈りの2回実施しました。



田植えの様子



稲の有機栽培の様子



稲刈りの様子

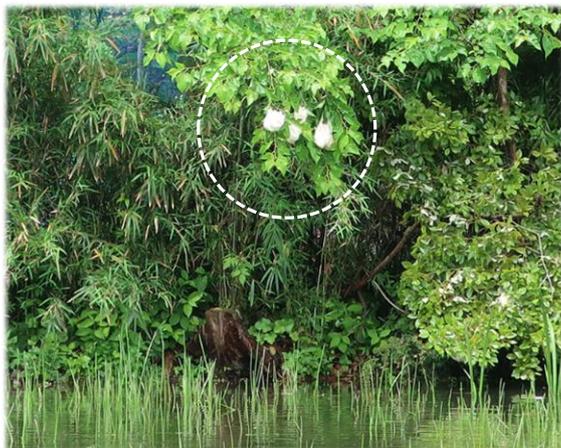


- ・富士宮工場に隣接する社有森林では、杉や檜などの針葉樹林から本来の植生である広葉樹林へ戻すため、2023年は1.4haを皆伐し、広葉樹を1,400本植樹しました。



植樹の様子

- ・社有地内のビオトープでは年間を通して環境整備や水位管理を行っており、モリアオガエル（準絶滅危惧種）などの産卵数が増加してきました。また、本年度もホタル観賞会を5月下旬から6月初旬に開催しました。



モリアオガエルの卵塊



ホタルが発光する様子

- ・富士宮社有林の森林整備について

富士宮社有林の森林整備を2012年より行っており、本年度までに32haの森林整備を行いました。富士宮における整備予定の森林面積は約40haで、ヒノキを中心とする針葉樹の単層林（樹齢60～70年）です。

富士森林組合と提携し2012年より森林整備を開始しましたが、ムササビ、モリアオガエル、エビネなどの希少な動植物（静岡県レッドデータブック記載種）が生息しているため、環境負荷を最小限に抑えた手法で森林整備を実施しています。

また、針葉樹林から広葉樹の里山へと遷移させるため、自然植生の回復を図る地区と広葉樹を植栽する地区を設けて、2029年の整備終了までに約41,000本の苗木を植える予定です。



伐採中



伐採後

6-2-6 その他

(1)環境事故訓練

- ・切削廃油の漏洩、火災事故を想定した環境事故対応訓練を、本社工場加工第1課と尾羽工場ダイカスト課で実施しました。



訓練風景(加工第1課、ダイカスト課)

- ・台風によるビニールハウスの倒壊、飛散を防ぐことを目的に、ハウスの構造と風害の特性の講習。ハウスの台風接近時の対策の実習を実施しました。



ハウス構造についての講習(エコファーム部)



台風接近時の対策の実習(エコファーム部)

(2)環境関連法規の遵守

- ・環境関連法規の遵守状況を確認するため、作業環境測定(ばい煙、粉じん、特定化学物質)排水測定、敷地境界騒音測定、を実施しています。

6-2-7 地域コミュニケーション

(1)工場見学

- ・近隣小中学校生徒の皆様の工場見学受入れを実施しています。

(2)地域貢献活動

- ・地域への貢献活動として、興津川の清掃活動にも参加しています。



小中学生の工場見学



興津川クリーン作戦への参加

(3)ミニロボ普及活動

ミニロボとは「子供達にもものづくりに興味を持ってもらいたい」「理科離れを防ぎたい」という志のもと開発された組立式のサッカーロボットです。地元静岡の小学校へ出張授業、ユーザー向けの競技会や販売施設運営を行い、教育的な地域貢献活動を行っています。

・ミニロボチャレンジ教室

県内小学校約70校でミニロボを使った出張授業を開催しました。

社員が学校を訪問し、理科の授業、キャリア教育、プログラミング体験、組立体験などの授業を行います。子供達は楽しみながら深い学びの実現に向けた学習を行っています。



キャリア教育授業風景



プログラミング授業風景

・ミニロボプラザ運営

ミニロボプラザとは「ミニロボの大会に向けて練習をしたい」「もっとミニロボを動かしたい」という、子供達の声に応じて開設したものです。利用可能時にはスタッフが常駐して、修理や改造の相談も受け付けており、ミニロボ本体、その他パーツの販売も行っています。



ミニロボ組立作業の様子

・競技会運営

子供から大人まで集い、組立・改造したミニロボでサッカーの競技会を行っています。試合では激しくボールを奪い合い華麗にドリブル、シュートを決めています。日々改造や練習を重ねた参加者たちが優勝を目指し、真剣勝負を繰り広げています。



試合中の様子



優勝者トロフィー授与

(4) ネーミングライツパートナーシップ契約を通じたスポーツ機会の創出

・静岡市のスポーツ振興への貢献を目的に、静岡市および株式会社エスパルスと清水日本平公園球技場ネーミングライツパートナーシップ契約を締結。契約に規定する球技場無償使用権に基づく事業として、静岡パラフットボールフェスティバル、IAI カップ静岡県チャイルドサッカー大会、全国少年少女草サッカー大会を開催し、障がい者から子供まで多くの世代にサッカーを楽しんでもらう機会・場を創出しています。



IAI カップ静岡県チャイルドサッカー



静岡パラフットボールフェスティバル

(5) 障がい者サッカー、ブラインドサッカーへの支援

・ジョイスティック型ミニロボ製作・寄贈

パラフットボール体験会で使用するジョイスティック型ミニロボを自社開発・製作し、静岡 FID サッカー連盟への贈呈。2022 年から 2024 年 2 月までに、県内の特別支援学校へジョイスティック型ミニロボを合計約 200 台寄贈しました。障がいを持つ生徒が授業(自立・自律活動)で使用する他、パラフットボール体験会で健常者と一緒にプレーする交流活動にも活用されます。



標準ミニロボとジョイスティック型ミニロボ



ジョイスティック型ミニロボで対戦

・ブラインドサッカー(視覚障がい者サッカー)の支援

ブラインドサッカーは視覚に障がいを持った選手がプレーできるように考案されたサッカーです。タッチラインが見えないためブラインドサッカー用フェンスが必要であり、フェンス購入の支援(貸出、運搬と保管)とフェンス用バナーの製作を行いました。

また、2023 年よりブラインドサッカーフェスティバルの協賛も行っています。



2024 年 1 月ブラインドフットボールフェスティバル

7 環境関連法規等の遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規制の遵守状況を確認した結果、利害関係者からの環境に関するクレーム、苦情はありませんでした。(法令違反、訴訟等はありません。)

法規などの改定(最新版)確認日:2024年1月31日

遵守確認実施日:2024年1月31日

遵守確認者:環境管理責任者 伊東真一

法規・条例・規制の名称	細目	遵守状況
工場立地法	工場建設時の届出	遵守
土壌汚染対策法	工場建設時の届出	遵守
消防法	防火管理者の選任 危険物保管量の管理、届出	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (一般廃棄物多量排出事業所減量化指導要綱:静岡市) (事業系一般廃棄物の減量化等に関する指導要綱:富士宮市)	・電子マニフェスト発行 ・事業系一般廃棄物減量化計画、 一般廃棄物排出量報告 ・事業系一般廃棄物管理責任者選任届	遵守
静岡市産業廃棄物適正処理条例	産廃処分委託先の現地確認 (委託先が優良業者である場合は、現地確認不要)	遵守
静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	適正処理及び再生利用の促進等による減量	遵守
資源有効利用促進法	・原材料等の使用の合理化 ・再生資源及び再生部品を利用	遵守
特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	・特定家庭用機器廃棄物の排出抑制 ・特定家庭用機器廃棄物の再商品化の協力	遵守
浄化槽法	設置届出 法定検査(第11条) 保守点検 定期清掃	遵守
労働安全衛生法 (労働安全衛生施行令、労働安全衛生規則) ・粉塵障害防止規則 ・特定化学物質障害予防規則 ・有機溶剤中毒予防規則	危険・有害物質の管理 粉塵測定 機械等設置届(局所排気装置摘要書) 化学物質による健康障害の防止 有機溶剤による健康障害の防止	遵守
騒音規制法 振動規制法 静岡県生活環境保全等条例	特定施設(コンプレッサー、成形機等)の届出 "	遵守

大気汚染防止法 (静岡県生活環境保全等に関する条例)	特定施設(ばい煙・粉塵発生施設、 ばい煙測定	遵守
水質汚濁防止法 (静岡県生活環境保全等に関する条例)	特定施設(高周波焼入れ装置、ダイカストマシン)の届出、排水測定	遵守
PRTR法	対象物質(第1種指定化学物質)の届出	遵守
毒物及び劇物取締法	盗難漏洩防止処置 毒劇物の施錠管理、容器表示、台帳管理等	遵守
農薬取締法	使用基準の遵守	遵守
省エネルギー法	<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー管理統括者の選任 ・ エネルギー管理企画推進者の選任 ・ エネルギー管理員の選任 ・ 中長期計画書の提出 ・ 定期報告書の提出 	遵守
温暖化対策推進法	・ 排出した温室効果ガス算定量の提出	遵守
静岡県地球温暖化防止条例 (温室効果ガス削減計画制度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガス排出削減計画書の作成・提出 ・ 削減報告書の作成・提出 	遵守
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易、定期点検 ・ 廃棄時のフロン回収(業者) 	遵守
環境保全に関する協定書 (富士宮市)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 排水、廃棄物の適正処理 ・ 自然環境の保全 ・ 関係諸法令の遵守 	遵守
RoHS 指令 10 物質(顧客要求事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法規制の遵守 ・ 顧客要求の遵守 	遵守
REACH 規制(顧客要求事項)	・ 顧客要求の遵守	遵守

8 代表者による全体評価と見直し結果

【環境経営方針の見直し】

- ・ 変更はありません。

【環境目標/環境計画の見直し】

- ・ 2024 年度の廃棄物削減目標(一般/産業)は、中期 3 年目標の最終年度であるが、市場景気、業界状況等を鑑みて、2023 年度目標値を継続＝再チャレンジする。
(2023 年度の一般廃棄物、産業廃棄物削減率は目標未達であった為、2024 年度目標を変更した。)

【実施体制の見直し】

- ・ 変更はありません。

【具体的な取組み】

- ・ エコアクション 21 ガイドライン 2017 年版の推進・改善
 <施策>
 2024 年度 環境目標の達成
 製品含有化学物質管理の推進・改善

【総合評価】

一般廃棄物排出量の削減目標が昨年に引き続き達成できなかったのは、従業員増によるものですが、どのような廃棄物か、それらを削減するための施策を作ることが大事です。もう少し深く分析してください。

日付：2024 年 3 月 18 日

代表取締役社長

石田 徹